

向学館通信

2008・8・26

計画的に、有意義に夏休みを使いましたか。

毎年のことですが夏休みの生かし方は、個人差が非常に大きく、それが秋以降の学習にストレートにつながっているようです。学習に努力を傾注できなかった人は、今からです。

夏休みは、数・英の「復習プリント」で実力アップ・・・君はどうだった？

当塾では、中3生には、夏休みの課題として数学、英語の「復習プリント」をやってもらっています。これは、もう何年も続いている夏の行事の一つです。このプリントの内容は、次のようになっています。

数学は、「中1」「中2」「図形」の3種類があります。英語は、中1から中3の夏ころまでに習う範囲をまとめて、「英語復習プリント」としています。

これを全部やり終えると、基礎力がつき、かなり難しい応用問題でも対応できる力がついてきます。3年生は、みな部活などで忙しく、普段はどこかの単元が分からなくなっている、それを埋め合わせる時間がありません。だから、よくできる生徒でも、どこかの単元が理解不十分というのはよくあることです。復習プリントは、こうした「穴あき」単元を発見し、その部分に的確な対処をするための、向学館独自の教材です。

この教材は、基礎的なことも含んでいますので、生徒の実力を考慮して、できる人には簡単な問題をやらせない（時間の無駄だから）といった配慮は当然です。逆に、分らない単元で、その場の説明だけで済まない生徒には、その部分の類題やもっとさかのぼった基礎的な説明を行っています。だから、分らないところが多いほど、大変な時間と労力が必要になります。

この夏はこれらの復習プリントを全部やり終えた人は、数人しかいませんでした。大部分は、途中で夏休みが終わってしまいました。学校が始まると、学校の進度に合わせた勉強が優先されますので、復習はおあずけになります。

夏休みにもっと頑張って復習をしてくださいと言っても、たいして頑張らずに過ぎてしまった人は、数学や英語を基礎からしっかり身につけるための、貴重なチャンスを逃してしまったのかも知れません。残念なことです。反対に、やり終えた人は、相当な自信をつけたと思います。

中3の夏は、こうした意味で、個人差をより大きく広げる時期なのです。

数学が分からない高校生にならないでほしい

高校生で「数学が分からない」と言ってしまう人は、中学校までの数学が十分に分かっていないのです。いまの中学生は全員が高校へ進むのだから、高校でいきなり数学で困ることにならないように、中学段階から対処しておいてほしいと思います。

高校の数学は、中学校までの数学とは大きく違っていています。中学で数学の成績が「4」であった人の多くが、高校の数学ではつまづいてしまいます。「3」であった人は、ほとんど分からないと言っています。高校の数学は中学レベルとちがいます。

いちばん大きな違いは、いくつもの原理（公式の理解）を組み合わせ、一つの問題を解いていかなければならないということです。中学の数学では、一つの問題は一つか、せいぜい二つぐらいまでの原理で解けますが、高校の数学では、解き方の道具（原理的な理解）をいくつも駆使して一つの問題を解いていくこととなります。公式の丸暗記だけでは、通用しなくなります。

この段階で、それまでの学習の仕方が、自分の頭で考えてきたのか、考えることから逃げていたのかが問われます。最近の中学校での数学はとて易しくなっていますので、あまり考える努力をしなくても（暗記だけでも）、そこそこの点数がとれるので、そのことに甘んじてしまった人が高校で困っているのです。一にも二にも、自分の頭で考えることでしか、高校の数学は解けません。

ところが、論理的な思考力は、高校になって急に身につくものではありません。それこそ、小学校からの学習習慣や生活態度のなかで定着していくような、根の深いものです。高校生になってからこうした習慣を獲得するのは、とても大変なことです。こういうことのないように、もっと早くから「考える習慣」を身につけてほしいと思っています。